

# 第一礼拝次第

メッセージ: 渡真利彦文牧師  
司会: 伊禮信義先生  
プレズリット: 郭永東牧師



前奏			
頌栄	540	会衆	会衆
主の祈り		会衆	会衆
プレイズ	「主イエス様はぶどうの木」	会衆	会衆
	「主の栄光宮に」		
聖書朗読	詩編 121: 1~2	司会	司会
祈禱	(旧約聖書 P968)	司会	司会
証し			
賛美	讚美歌 228	会衆	会衆
メッセージ	「山々を仰ぐ」	牧師	牧師
祈禱		牧師	牧師
賛美	新生 621	会衆	会衆
献金			
報告		司会	司会
頌栄	新生 672b	会衆	会衆
祝禱		牧師	牧師



# 第二礼拝次第

メッセージ: 郭永東牧師

聖書: 列王記上 16: 21~34 (旧約 P560)

メッセージ: 「オムリとアハブ」

プレイズ: 「主イエス様はぶどうの木」

「主の栄光宮に」

賛美: 新生 378 新生 385



# ファミリー礼拝

お話し: 伊禮信義先生

聖書: 列王記上 3: 5~14

メッセージ: 「知恵を求めたソロモン」

## <巻頭言>

「教会の祈り」 牧師 渡真利彦文  
主の贖いは完成され、全人類の救いの準備は万端なのに、それを人々に携え届ける使者が足りないのです。

「収穫のために働き手を送ってくださるように収穫の主に願いなさい。」(マタイ 9:38)とは最優先の課題で待ったがない。

「この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも賢く振る舞っている」(ルカ 16:8)と主は言われる。教会はどうだろうか。「個人の召命感に委ねています」とのんきなものではないだろうか。若い人材をどんどん社会に奪われている。本当にそれでよいのでしょうか。使徒言行録の記録を見ると、「彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。『さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出しなさい。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。』」(使徒言行録 13:1)とある。

聖霊は、どこからどのように言われたのでしょうか。おそらく彼らは祈りと断食の礼拝の中で、強い救霊の思いにかられ、何とか周囲の国々にもこの福音を伝えたいと思ったのでしょうか。

では「だれがそれを」となった時だれかがきつと「バルナバとサウロが」と言い出したでしょう。そして祈りのうちにそれが全教会の確信となり、「これこそ聖霊の導き」であると確信するに至ったのでしょうか。

私たちの教会にも、宣教のためにこのバルナバとサウロ探しの教会の祈りがもっと高まる必要があります。献身は自薦よりも他薦のほうが、主のやり方で聖書的です。